

レーザー光当て可視化、手術を1回に

眼底治療に新たな光

大分大学と隣県企業との西日本電線（大分県）が、糖尿病や加齢による眼底症の病気を手術する手術、眼底内にレーザー光を当てて治療を可視化する手術装置の共同開発に取り組んでいる。手術中に造影剤を投与し、造影剤が血管に集まることで、数回ばかりでいた治療が一度で済むメリットがある。「画期的な新技術、患者の負担軽減、手術精度の向上につながる」と関係者。2014年度の實用化を目指している。



手術中蛍光眼底造影装置の「光ファイバープローブ」(西日本電線製)



大分大学 研究開発部長 加藤 直樹



井上 謙 教授



大分大学 教授 加藤 直樹

共同開発しているのは「手術中蛍光眼底造影装置」。大分大学理学部の眼科が中心となり、同大工学部や光ファイバーの加工技術を持つ西日本電線が主力。造影剤を投与する装置、試作機を製作、許認可まで、装置はほぼ完成した。

大分大と西日本電線が装置開発

14年度實用化目指す

同大などにより、糖尿病や加齢による眼底症の病気を手術する手術、眼底内にレーザー光を当てて治療を可視化する手術装置の共同開発に取り組んでいる。手術中に造影剤を投与し、造影剤が血管に集まることで、数回ばかりでいた治療が一度で済むメリットがある。「画期的な新技術、患者の負担軽減、手術精度の向上につながる」と関係者。2014年度の實用化を目指している。

「手術中の「造影」として、造影剤が血管に集まることで、数回ばかりでいた治療が一度で済むメリットがある。「画期的な新技術、患者の負担軽減、手術精度の向上につながる」と関係者。2014年度の實用化を目指している。

日本電線が率先して研究開発。科学講座の久保田直樹教授が中心となり、同大工学部や光ファイバーの加工技術を持つ西日本電線が主力。造影剤を投与する装置、試作機を製作、許認可まで、装置はほぼ完成した。

「手術中の「造影」として、造影剤が血管に集まることで、数回ばかりでいた治療が一度で済むメリットがある。「画期的な新技術、患者の負担軽減、手術精度の向上につながる」と関係者。2014年度の實用化を目指している。

